

子どもの本だな 123

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

てぶくろがいっぱい

フローレンス・スロボドキン 文
ルイス・スロボドキン 絵 三原 泉 訳 (偕成社)

ふたごのネッドとドニーは、おそろいの赤い手袋を持っています。冬のある日、ドニーは手袋が片方ないのに気がつきました。2人があちこち探していると、友だちが届けてくれました。ところが、お隣さんからも「これ、ちがうかしら？」とそっくりな赤い手袋が届きました。そのあとも、学校の先生、郵便屋さん、牛乳屋さん…2人が手袋を探していると聞きつけた町の人たちから次々に手袋が届き、引き出しは手袋でいっぱいになりました。そこで2人は庭の物干しロープに手袋を吊るして張り紙をしました。「あかいてぶくろをなくしたひとへ。うちのうらにわをのぞいてみてください。」まもなく、うわさを聞きつけた人たちが次々に訪れ、やがて手袋は1つだけになりました。

次々に届いた手袋がまた次々になくなっていく様子は愉快です。温かみのある柔らかな線と色合いで描かれる絵がお話によく合っています。読んでもらえば4歳くらいから。(池之上)

ジェニーとキャットクラブ 黒ネコジェニーのおはなし1

エスター・アベリル 作・絵
松岡 享子、張替 恵子 共訳 (福音館書店)

小さい黒ネコのジェニーは、飼い主のキャプテンが編んでくれた赤いマフラーを巻くと勇気がでます。ある日、ネコの集まり「キャット・クラブ」をのぞいてみると、どのネコにも特技があり、歌ったり踊ったりして楽しそうです。クラブに入りたくても何もできないジェニーは、家に逃げ帰ってしまいました。その冬、クリスマスに銀のスケート靴をもらったジェニーは、マフラーをなびかせて氷の上を見事に滑り、ついにクラブの仲間を迎えられます。「ジェニーがキャット・クラブにはいるはなし」)

内気ではにかみやのジェニーですが、いざとなると勇気と賢さを発揮します。乱暴な犬たちに囲まれても、うまく切り抜けて友達に笛を届ける「ジェニーが月夜にぼうけんするはなし」など、1～3巻の中に7編のお話が入っています。赤、黒、黄の鮮やかな挿絵は、ネコたちの動きをユーモラスに描きます。読んでもらえば、4～5歳から楽しめるでしょう。(池田)

2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

< お知らせ >

太子町立図書館開館40周年記念講演会

対談講演会

子どもの一生を支える絵本
～絵本づくりの現場から～

- ・小風 さち さん(児童文学作家・翻訳家)
- ・関根 里江 さん
(福音館書店 こどものとも編集長)

・日時:2024年 **2月18日(日)**

・開演:14:00～(13:30 会場)

・会場:丸尾建築あすかホール 中ホール

・定員:250名(要申込/入場無料)

・申込:太子町立図書館

※詳しくは太子町立図書館まで

▶×印は休館日 ※閉館時は返却ポストをご利用ください。
(2/14、2/26、3/21は祝日の振替、2/29は館内整理日)

▶開館時間は10:00～18:00、金曜日は20:00まで開館

『 ハム ネット 』 マギー・オファーレル 著

小竹 由美子 訳 新潮社 409頁 2021年11月刊 2,500円 (請求記号) F オフ

本書は、あまり語られることのないシエイクピアの妻、アグネスの物語である。

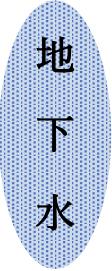
アグネスは菓草に詳しく、未来を見通す力を持っていた。ある日、若いラテン語教師に出会い、周囲の反対を押し切り結婚した。父親との不仲を心配し、アグネスは夫をロンドンに送り出した。夫は劇作家として成功していくが、授かった双子のうち、娘は体が弱く、都会で家族一緒に暮らすことはできなかった。

双子が11歳に成長したある日、ベネチアから美しいガラスのビーズが届いた。美しいものが大好きな娘はうっとりとして手にとるが、ビーズを包んでいた布には、病原菌ペストが潜んでいた。発病した娘の看病に疲れ果て、アグネスが眠り込んでいた間に、息子まで発病。目を覚ました時、アグネスが目にしたのは、持ち直した娘と臨終間際の息子だった。わが子を失った痛手は深く、アグネスは長い間立ち直れなかった。一方、夫は葬儀後すぐにロンドンに帰り、劇の上演に走り回る日々を送っていた。アグネスは夫の行動を理解できなかったが、夫がアグネスのために手に入れた広い敷地の屋敷で暮らすうちに、以前の生活を取り戻していった。ある日、アグネスは、夫が新しい作品に息子の名前を用いていることを知り、劇場に駆けつけた。そこで目にしたのは、わが子が成長して現れたのではないかと思うほど、息子そっくりの主人公ハムレットだった。

著者は高校生のころ、「ハムレット」がシエイクスピアの息子の名前だと知り、悲劇に子の名前をつけた理由を知りたいと思っていた。11歳の息子をペストで失ったことや妻のこと、劇作家をやめた後、妻と故郷で暮らしたことなどをとくに、この物語を創った。当時のロンドンや近郊の人々の生活、そして子どもを失った夫婦がどう立ち直っていくのか、まるでそばで見ているかのように味わった。(西村)

2月		3月		2・3月の移動図書館(いずれも木曜日です)		
8日	7日			福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50
15日	14日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
22日	28日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20	塚森 地域内 15:00~ 15:20	太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~ 16:20

< お知らせ >
毎週土曜日に
「おはなしの時間」
を開いています。
↓4歳~小学2年生
11:00~11:30
↓小学3年生~中学3年生
11:30~12:00
2月のおはなしは、「まめこじぞう」「ゆうかな靴直し」「トム・テイト・トット」などを予定しています。詳しくは、館内掲示または図書館HPをご覧ください。



春が近づく、子どもの頃に祖母が作ってくれた豆ご飯が食べたくなる。その豆はうすいえんどうで、春にしか採れないことを知ったのは最近である。自分で作れば好きなだけ食べられると思って、いそいそと苗を買いペランダのプランターに植えた。えんどうが育ち始めると愛おしくて、せつせと世話をした。それなのに、つるが伸び始めた頃、葉っぱに白い粉のようなものが付き、枯れ始めた。結局、楽しみにしていた豆はほとんどとれなかった。利用者のFさんにその話をしたところ、「肥料と水をやりすぎたのでは？」との答え。やればやるほど豆が採れると期待した私は、明らかに与えすぎていた。「肥料の種類も水のやり方も、品種にあった方法が書いてあるよ」と言って、初心者にもわかりやすい本を紹介してくださった。

園芸の本は特に利用が多く、古くても何度も読み返されている。何冊も読み比べ自分が一番合う方法を探し出し、書名がわかれば読み返すことができる。紙の本の良さを再認識した。たくさん本に囲まれていても、まだまだ知らないことだらけである。Fさんに教えてもらったように、いろんな利用者の方や本に自分自身を成長させてもらっている。その出会いをこれからも大切にしたい。(八木)